

YAMANASHI

あけ



壁飾り

新年挨拶

第11回職員交流ソフトバレーボール大会

第8回山梨県介護老人保健施設大会

介護支援専門員部会の紹介

施設訪問記 ナーシングプラザ三珠

施設紹介 山中湖あんずの森



新年挨拶

山梨県老人保健施設協議会

会長 保坂 久

(いちのみやケアセンター施設長)

新春を迎え会員の皆様並びに職員の皆様には益々ご健勝、ご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。昨年10月の介護保険制度の見直しにより施設利用者の食費、居住費が自己負担となり高齢者にとって大変厳しい状況に置かれることになりました。全老健としてもこの一年重大な関心を持って国の政策立案経緯を見守り、また国の各種審議会、委員会等において全老健の立場から意見、提案も行ってまいりましたが、結局、基本的には国の方針に沿った今回の改正となった次第です。しかし、実際に利用者が改正を納得し混乱なく受け入れるかどうか大変気をもむ重大事でありましたが、幸いにも本県においては全体として大きな混乱もなく比較的スムーズに移行できましたことは、行政はじめ関係者のご努力の賜物であり、特に会員施設の懸命なご努力と老健の理念を守るといふ尊い精神の結果に他なりません。改めて感謝を申し上げるとともに、今後とも高齢者が安心して暮らせる社会実現のために、この介護保険を崩壊させず安定した制度を作り上げるべく、国全体としても懸命に努力していかねばならないと思います。

山梨県老人保健施設協議会では、4月の職員新人研修をかわきりに種々の事業を展開して参りました。5月の山梨県老人保健施設協議会定期総会には県下全施設の会員並びに役職員の御出席をいただき、さらに県からの御臨席も得て、事業計画並びに予算審議をいただき恙無く全議事を終了することが出来ました。また、10月の第8回山梨県介護老人保健施設大会も例年と趣を異にし、セッションごとに優秀発表賞を授与して会員の一層の研究工夫や努力が実りあるものになるよう企画されたことは大変良かったと思います。これからも介護に携わる方々の努力が実りあるものになる様、協議会としても一層努力していきたいと考えております。高齢化が益々進む中、これからの最重点課題は要介護状態の重度化を極力防止することであり、そのためにはリハビリテーションを一層強化していくことだと思います。また老健は在宅復帰を促進する維持期リハビリテーション施設として、また身体障害者および認知症を対象にした個別的、集中的なリハビリテーションも積極的に行っていくべきだと思います。さらに介護老人保健施設は他の介護施設とは異なり、常勤医師を義務づけられている中間施設であることを忘れてはならないと思います。結核感染症やその他の感染症の予防・早期発見のため、更なる様々な条件整備を国は真剣に考えるべきだと思います。老健施設入所者の中にはさまざまな疾病を患い、今もなおその後遺症に悩まされている人が数多く入所されております。これらの人々に対しても一括介護保険の中でケアすることの困難さを入所者側にとっても介護する側にとっても、ひしひしと感じているところだと思います。今回の介護報酬改正にあたっては期待される介護老人保健施設の理念が積極的に果たすことが出来る施策を切に希望するところです。

高齢化社会における介護の施策は今大きな転換期にきていると思います。山梨県老人保健施設協議会の、皆様の一層のご活躍とご健勝をご期待申し上げ挨拶といたします。

平成17年12月4日(日) 甲府市総合市民会館・山の都アリーナにて「第11回山梨県老人保健施設協議会施設職員交流ソフトバレーボール大会」が開催されました。

今年は、県内29施設中26施設の参加があり大勢の人が集い、白熱した試合が展開され、日頃同じ介護老健施設で働く者同志多いに交流が深められたことと思います。

早朝の体育館、凜とした空気、個性豊かなブラカードを先頭に全チームの見事な整列、速やかに進行され、さわやかな開会宣言後、保坂久会長より激励、大会の選手代表による宣誓はノイエス保坂潤選手の元気な宣誓に一同多いに賛同いたしました。

『試合開始～試合結果』各コート主審のホイッスルが響き渡り、バレーボール特有の心地よい緊張感漲る試合が続き、寒さも吹き飛ばす熱戦の連続に多いに交流が図れたことと思います。

特集『優勝施設にインタビュー』

今大会優勝した甲州ケア・ホームの選手を代表して、松木利仁・那須美幹・秋山小枝子3選手にお話を伺いました。

Q『優勝した感想は』?

「うれしかった、去年2位で同じ峡南ケアホームいいとみと決勝戦で対戦し負けているので是非ともリベンジを果たしたかった。また、第1回大会より参加しているが、優勝の経験はなく是非優勝したかった。今年は甲州リハビリテーショングループ創立40周年の記念の年であり花を添えると言う意味で良かったと思います。」

Q『優勝できた一番のポイントは』?

「チームワークが良かったと思います。」

Q『練習への取り組みは』?

「バレーボール参加への有志が中心となって、9月頃より月に2回くらい近隣の中学校の体育館を借り練習をしたり、甲府南ライフケアセンターさんとの練習試合を行いました。」

Q『チームのMVPを選ぶとしたら』?

「ムードメーカー的存在の松木君です。苦しいときにみんなを盛り上げてくれたと思います。」

Q『ユニフォームの文字魂の意味は』?

「故・島津寿宏(前山梨県老人



保健施設協議会会長)が好きな言葉だったそうです。背番号が甲州ケア・ホームのユニフォームにはありません。背番号により差をつけるよりも一人一人の魂を大切にしよう。そして、力をあわせて何かを行うことの大切さが伝わる、そんな意味があるそうです。優勝カップを授与される時、故人の喜んでい顔が浮かびました。」

Q『来年に向けての抱負は』?

「連覇を目指したい。今のムードを維持発展出来たら必ず達成出来ると思います。」

まとめ

甲府盆地にも、初雪の舞う寒い中、皆様の協力により無事に大会が終了出来ましたこと、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。また、今大会に運営に際しご尽力いただきました県老健・保坂会長以下関係者各位の皆様、最後まで本当に応援有難うございました。

(福利委員担当施設 あさひホーム 五味卓弥 記)



成績結果

優勝	甲州ケア・ホーム
準優勝	峡南ケアホームいいとみ
第3位	甲府かわせみ苑 いちのみやケアセンター
応援大賞	ももくら 峡西老人保健センター



第8回 山梨県介護老人保健施設大会を終えて



山梨県老人保健施設協議会理事
研修委員長 臼井行夫
社会福祉法人山梨檜の会理事長
(老人保健施設甲府相川ケアセンター)

平成17年度 第8回山梨県介護老人保健施設大会が甲府市のベルクラシック甲府に於いて県下全29施設の職員参加のもと開催されました。

山梨県より杉原初男福祉保健部長、芦沢正吾長寿社会課課長補佐のお二人にお忙しい中ご臨席をいただきました。

大会は山梨県老人保健施設協議会の保坂久会長のあいさつで始まり、杉原福祉保健部長のご祝辞をいただき、その後講演に移り、NPO法人純正律音楽研究会代表 玉木宏樹先生と介護老人保健施設“はまなす”施設長福田六花先生による「音の自然食、純正律音楽のススメ」という講演をお聞きしました。内容は老人施設の音楽療法として純正律音楽が非常に効果的という中味でした。

純正律音楽とは、一般的な平均律とは異なり、透明でこち良い響きのある音楽であり、そのおだやかな曲を就寝時に流すことにより、入所者の不穏や徘徊が減り、いやし効果もある旨の興味深いお話しで、実演や実例を交えての講演は非常に参考になりました。

その後、演題発表に移り26施設より4つのテーマに分かれた研究発表があり、各セッションに座長を置き、するどい質問などのあと座長がまとめるという形で進められました。なお、今大会より各セッションの優秀賞を決め表彰を致しました。

本大会の目的は、各施設での日頃の研究成果、課題などを発表し、その事を共有する中で議論を重ねその後の仕事につなげていただくことにあります。それ故、各参加者が大会で学んだことを持ち帰り、施設全体として常にフィードバックしていただくことが真に大会を生かすことになると思っています。



また今後も、この大会を通し絶えず業務を見直し、また研鑽し、全職員がグループワークの先にある最良なサービスと、その理念を改めて認識していただく機会となりますよう念願致す次第であります。最後に本大会にご協力いただいた全施設の関係者の皆様に衷心より御礼を申し上げ大会の報告と致します。

演題の一覧

セクション1 看護、介護（一般）

座長 ナーシングプラザ三珠 看護師長 小川益美

- ▶形のあるものが食べたい
～経営栄養から経口摂取への試み～
フルリール・むかわ 看護師 永田 五月
歯科衛生士 増田 裕美
- ▶褥瘡にラップ療法を導入して
～褥瘡は治る傷だと信じて～
甲府かわせみ苑 看護師 駒田みゆき
- チームケアを行って見えてきた利用者様の想い
～在宅復帰を望む利用者様へのアプローチ～
峡南ケアホーム・いいとみ 介護職員 石部 東馬
- ▶クラブ活動を通して
～趣味・娯楽への試み～
しおかわ福寿の里 介護職員 小沢 勇
- ▶外泊を目標とした摂食への援助
～嚥下困難な事例に対するチームアプローチ～
玉穂ケアセンター 介護職員 石川みゆき
- ▶「From HAND To HEART」(手から心へ)
～手話によるコミュニケーションの成立について～
NAC湯村 看護師 杉山 悠美
- ▶高齢者疑似体験を通してケアを考える
～“利用者本位”を追及して～
白樺荘 介護職員 渡会 賢

セクション2 リハビリテーション・レクリエーション、 通所リハビリテーション・在宅サービス 地域との連携

座長 玉穂ケアセンター 作業療法士 大久保寿美

- ▶協働によるADLが拡大した症例
甲府南ライフケアセンター 介護職員 篠崎 弘祐
- ▶レクリエーションの改善への取り組み
～「今日は何をするの？」～
いちのみやケアセンター 介護職員 長阪 剛
- ▶楽しいレクリエーション改造計画の報告
～「今日は何するで」～
ナーシングプラザ三珠 介護職員 井上 祐二
- ▶レクリエーションを通じて…
～ADLの活性化に向かって一歩づつ～
あさひホーム 介護職員 金丸信太郎
- ▶レクリエーションプランの開発・導入
～利用者の声からレクの個別化を目指して～
甲州ケア・ホーム 介護職員 菅野 静子
- ▶通所リハビリテーションに水中リハビリを導入して
みのりの里介護老人保健施設旭ヶ丘
看護師 清水喜代子
- 夢が叶った温泉三昧
～裸になる職員も～
はまなす併設通所介護センター ラベンダー
介護福祉士 梶原恵子

セクション3 看護、介護（認知症）

座長 山梨ライフケアホーム 介護主任 清水勝彦

- ▶排泄の個別ケアをめざして
～わかってくれてありがとう～
ケアホーム花菱 介護職員 堀内 康
- ▶老人と性～
～きもちの良い施設生活を～ PART 2
ももくら 介護職員 勝又 陽治
- ▶「座る」
～いいね！～
ノイエス 介護職員 清水 純子
- ▶放尿(+)から(-)へ
～個別排泄ケアへの取り組み～
山中湖あんずの森 介護職員 荒井ますみ
- 固定チーム継続受け持ち制の導入
～入所者様、その家族との関わりを深めたい～
鯉沢社会保険介護老人保健施設 看護師 清水多美子
- ▶重度認知症高齢者群に対するハーフ・ユニットケア
～「生活を共にするケアを」～
山梨ライフケアホーム 介護職員 藤原 忠子

セクション4 ケアプラン・リスクマネジメント、栄養・ 食事、その他

座長 ひばり苑 支援相談員 本 敏己

- ▶ヒヤリハットから知る
ケアセンターいちかわ 介護福祉士 加藤 孝明
- ▶利用者本人が参加する担当者会議
～自分の生活を自分で決められる～
甲府相川ケアセンター 介護福祉士 初鹿 沙織
- ▶事故からみる私達の事故防止対策
～データーから事故の傾向を探る～
恵信ケアセンター 看護師 小松美枝子
- ▶利用者が安全に生活出来る施設をめざして
～1年間の事故、インシデントから見えてきたもの～
ひばり苑 介護職員 石川 誠
- おやつバイキングの取り組み
～どれにしようかな～
峡北シルバーケアホーム 管理栄養士 湯本 恵子
- ▶動物とのふれあい
～グループ活動で利用者に癒しを～
峡西老人保健センター 介護福祉士 飯野 敦也

介護支援専門員部会の紹介

介護支援専門員部会長 大浦博文

平成17年8月24日に第一回介護支援専門員部会が甲府市のリバース和戸で開催されました。念願叶い、山梨県老健の施設ケアマネが一同に会することができたのです。初めてお会いする方々に少し緊張感を覚えながら、とりあえず情報交換を行なうことになったのですが、始まった途端、施設ケアマネの皆様から、ものすごい熱量の情報が飛び交い、白熱したトークバトルがくりひろげられ、情熱に満ちた鋭い視線にタジタジになりながら、私は井の中の蛙だったのだと、つくづく痛感しました。しかも、私を含め、皆様かなりストレスがたまっているなど、ひそかに共感しました。

たしかに、施設ケアマネはストレスがたまります。最近確立されたばかりの職種であるため、上司や他職種にも、どんな仕事をしているのかははっきりと理解されてなく、施設の中核を担っていると自覚しながら、現場にペコペコ頭を下げ歩き、利用者様やご家族の為にがんばるぞと意欲を高めても、結局、夜遅くまで指導監査の為にパソコンの前でカタカタとプランを作成し、相談しようと辺りをみても仲間がいなく、孤独感だけが全身に沁みこんでくる...そんなネガティブな環境で、仕事を黙々と続けてきたのでした。

というわけで、今の話には少し大げさなところや、個人的な見解がありましたが、今回から発足された介護支援専門員部会は、私たち施設ケアマネにとって、とても意義のある重要な集まりであると思うのです。今後、グループワークをしたり、講師をお招きしたり、情報交換したりと、いろいろ試行錯誤しながら部会を発展させていきたいと思っています。しかし、私たちはそのような部会の内容よりも、部会を開催することで生まれる施設ケアマネ同士の深い絆や連携を、本当に大切にしていきたいと思っています。この集まりがきっかけとなって、いつでも気軽に声をかけられる関係になれるなら、それだけでも部会を立ち上げる意義が大いにあります。そして、それが老人保健施設のサービスの質を、さらに向上させていく重要なファクターになるのではないかと期待しています。



2年連続! 優秀賞

演題：純正律音楽の効果
はまなす

平成17年度全国老健大会(神奈川)で昨年の香川大会の優秀演題が表彰されました。『はまなす』の受賞は15年度の北海道大会に引き続き、連続受賞です。

施設訪問記

(訪問者 甲州ケア・ホーム)

ナーシングプラザ三珠

介護老人保健施設 ナーシングプラザ三珠は県中西部 市川三郷町に位置し、山梨県で7番目の施設として平成4年に開設されました。平成12年には在宅福祉施設カーム三珠を開設し、通所介護、グループホームも利用することが出来ます。歌舞伎の故郷、同町の豊かな自然に恵まれた施設からは、甲府盆地西部の景色を見渡すことが出来ます。また春には施設前に並ぶ桜の木々を楽しむことができます。

今回は、米波達哉事務長と入倉啓悦相談員にお話を伺いました。



施設目標：地域に開かれた施設

地域に開かれた施設として毎月のお誕生会・各種催し物にあわせ、日本舞踊からジャズバンドまで幅広い分野のボランティアの方々が来所されます。地域の保育園児が定期的に訪問し、遊戯の披露や利用者の皆さんとの交流を楽しんでいます。また地元開催の運動会では招待席が用意されるなど、町との良好な関係を伺うことが出来ます。

季節の催し

ご家族の協力のもとでの夏祭り、春と秋の運動会、冬のクリスマス会、餅つき大会と季節毎にご利用様に楽しんでいただける催しを開いています。寿司職人によるにぎり寿司、厨房スタッフによる手打ちそばでは、目でも楽しんでいただけるような工夫もされています。

思ったことが言える環境

米波事務長の言葉が印象に残りました。「利用者の皆さんが思ったことを言える環境を作りたいんです。利用者の方々は人生の先輩。状況を選び、時には我慢して思いを口にしないことがわかるんです…。思ったこ

とが言える環境、これは同じようにスタッフにも必要。うちでは、スタッフに任せる姿勢を大切にしています。スタッフの発することから、全体が動くことも多いんですよ。利用者、ご家族、スタッフ、来客者何れにも、居心地の良い環境を作っていきたいと思っています。実は、利用者の方々に自分が面倒を見てもらっていると感じているんです。」

町の好意で桜が植樹された施設、桜の季節には是非訪れてみたいものです。



施設の概要

入所定員 100名

通所リハビリテーション定員 20名

在宅福祉施設 カーム三珠(併設)

通所介護定員 20人 グループホーム 17人

協力病院 市川三郷町立病院

協力歯科 アイボリー歯科(内藤歯科)

所在地 〒409-3612 西八代郡市川三郷町上野2968

電話番号 055-272-8611 F A X 055-272-8653

設置運営主体 医療法人 桃潤会

● 施 ● 設 ● 紹 ● 介 ●

山中湖あんずの森

〒401-0501 南都留郡山中湖村山中1069 - 3
TEL 0555-63-2333

医療法人社団富士厚生会介護老人保健施設

山中湖あんずの森は、平成16年5月1日に山中湖村に開設いたしました。

富士山を一望できる山中湖あんずの森は、東富士五湖有料道路山中湖インターより1分の位置にあり、ファンック通りを入った住宅地一角に立地しております。また、施設裏側には村道が整備され、山中湖や花の都公園、忍野八海へのアクセスが良くなっております。施設周辺は、家族や地域住民とも散歩や散策ができるよう整備されております。

建物は、居室は全室個室（認知症専門棟の一部を除く）で全館床暖房を完備しております。各ユニットはゆとりのある空間をインテリアや色彩で分け、家庭的なぬくもりのある穏やかな印象をあたえています。

入所定員90名（認知症専門棟20名）、通所リハビリテーション定員20名、認知症対応型共同生活介護9名、短期入所療養介護等、居宅サービス等も提供しています。また、富士厚生グループでは長期療養型を備えた有床診療所を中心に、老人保健施設・特別養護老人ホーム・訪問看護ステーション・訪問リハビリ・訪問介護・介護ショップ等を展開しております。

入居者の皆様に落ち着いた施設での生活をしていただけるように、地域のボランティアや、幼稚園・保育園等の多くの方々のご協力を得て行事を行っています。また、行事を企画し、いちご狩り遠足・お花見・夏祭り・納涼会・節分・紅葉狩り・クリスマスパーティー・行事食等、季節に合った様々なイベントを開催し、職員共々楽しんでおります。

富士厚生グループでは、『地球環境問題が人類共通の重要課題と認識し、豊かで快適な地球環境を次世代へ承継する』という環境方針のもとに、環境資格であるISO14001の認証登録を受けました。またグループのコンセプトである、『人・優・愛・健・楽』（人、自然を優しく愛し、健康で楽しい生活を）を常に持ち、家庭的でゆったりと時を刻む穏やかな施設を目指しております。



シリーズ さくひん



『新年』（壁飾り）（ナースングラザ三珠）

『新年おめでとうございます！』そんな思いを胸に当施設の通所リハビリテーションの利用者様が作り上げました。

年の瀬も押し迫る今日このごろ「今年ももうじき終わりじゃんね」「家の大掃除をしないとね」などと会話をはずませながら作品を仕上げ上げていきました。新しい年を迎えるにあたり、それぞれの思い描く新年へのイメージには様々なものがあります。水引を使用した華やかさや、オーソドックスに門松や凧をあしらった演出。今回の作品にはそれぞれに利用者様の思いが現れているように思います。

作品を通じ、利用者様と職員とのコミュニケーションが深まっていくことを実感しています。今後も利用者様と一緒に楽しみながら、様々な作品を作り上げていきたいと思っております。

編集後記

昨年10月の介護保険制度の前倒し改正は、ご利用者様の負担だけでなく老健施設運営にも大きな影響を及ぼしました。厚生労働省の平成16年度介護事業経営実態調査では、特養が8%、療養型が3%という経常利益の中で、10%以上も出しているのは老健施設だけという結果が出ましたが、本当に老健施設にそのような余裕があるのでしょうか？税のかかり方も異なる中、同じ土俵で議論しても良いのでしょうか？

今回の10月改正で食費を基準費用と同額の1,380円で設定し、第1段階から第3段階の方の比率が多い施設では、キャッシュフローベースでマイナスに転じる可能性も指摘されています。また、各地域によって異なりますが、一部の介護支援専門員や行政関係者までが世帯分離を勧める等介護保険で想定していないとんでもない状況もあると聞いています。

さらに今年4月に予定されている介護報酬と診療報酬の同時改正では、同省の病院実態調査で一部の開業医が高利益を上げているとの結果から、すでに診療報酬のマイナス改正予測がマスコミ報道される等、介護報酬においても予断を許さない情勢です。

とにかく、地にしっかりと足を着け、入所者を減少させることなくサービス提供の質を向上させ、また加算等の算定できるものは過剰に網羅し、さらに支出で削減できるものは積極的に削ぎ、粛々と施設運営を行わなければなりません。難しい問題が山積していますが、前向きで頑張りましょう。

広報委員長 中島 育昌
(サンビューかじかざわ施設長)

● ● ●

山梨県老人保健施設協議会広報誌

編集・発行 山梨県老人保健施設協議会
広報委員会

事務局 〒405-0076
山梨県笛吹市一宮町原田1255-1
いちのみやケアセンター内
TEL.0553-47-4811
FAX.0553-47-4815

ホームページ：
<http://www.y-rouken.jp>
Eメール:rouken@tiara.ocn.ne.jp

印刷 株式会社 少国民社

山梨県老人保健施設協議会よりお知らせ

1. ホームページURLを独自ドメインに変更しました。
<http://www.y-rouken.jp>
2. 介護支援専門員部会の発足に伴ない『部会掲示板』を新設しました。
各部会でのルールを決めて積極的にご活用ください。
 - ・管理者会
 - ・事務長部会
 - ・リハビリテーション部会
 - ・看護部会
 - ・介護部会
 - ・支援相談員部会
 - ・栄養士部会
 - ・通所リハビリテーション部会
 - ・介護支援専門員部会

各部会の掲示板には、それぞれにIDとパスワードを設定しています。各施設には、このIDとパスワードを山梨県老人保健施設協議会事務局より郵送等でお知らせしておりますので各施設のご担当者様にお聞きになるか、同協議会事務局あて郵便またはFAXでお問い合わせください。